評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建てっており、近くに保育所があります。海や山も近く自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間の行き来が自由にでき、普段から交流がもたれています。ホームは、総合福祉施設の一事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得られる等、日常的に連携が図れています。また、原子力防災対策として施設裏側に避難用シェルターが完成しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3階建ての高齢者総合福祉施設の1階にあり、窓からは青々とした宇和海を眺めることができ、四季折々の風情を感じることができる。福祉施設全体での行事や催しものを実施するなど、利用者同士の繋がりが増え、馴染みの関係もでき、職員間の連携も密になっている。また、職員全員が目標を掲げ、利用者がゆっくりと穏やかに生活できるよう支援をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、職員もまた管理者の声に耳を傾けるなど、何でも相談できる良好な関係が築かれ、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、笑顔あふれる暮らしが継続できるよう事業所全体で一丸となり取り組んでおり、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 汐風

記入者(管理者)

氏名 那須 百合

評価完了日

平成28年8月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の基本理念・基本方針を基に、職員一人ひとりが目標を持ちいつでも見て頂けるように掲示している	
			(外部評価) 法人全体の理念と基本方針を事業所内に掲示し、常に職員間で確認し合いながら職員全員が一致団結し利用者本位のケアに繋がっている。職員全員が、理念に沿った目標を立て、達成できるよう取り組んでいるほか、新人職員には管理者から理念について分かりやすく説明し、業務に生かせるよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は、少ないが地域の保育園行事への参加や、施設内の行事に地域の方が参加されたりボランティアに来て頂いている。	
			(外部評価) 近隣の保育園児の訪問や8月には施設全体の夏祭りを多くの地域住民の参加を得て開催するなど、地域との連携は取れている。利用者と職員がラップの芯をバチ代わりにして歌に合わせて合奏をするなどの出し物を披露し、大好評であった。また、9月には敬老会の開催も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、認知症の人の特性や理解を図るため、議題として取り上げ意見交換を行い理解していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、会議だけでなく行事を委員の方と一緒に 行うようにし、ふれあう時間を設けている。会議で出した意見等 は、職員会で報告している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町職員、区長、民生委員や介護 相談員など、幅広い参加者を得て誕生会やクリスマス会の行事 を合わせるなどし開催している。誕生会では昔のおやつ作りが 好評を得ており、また、会議では事業所の利用状況や活動報告 を行い活発な意見交換ができ、ケアの質の向上に努め利用者本 位の支援に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に、参加して頂いており日頃から連携がとれてい る。また、毎月介護相談員の受け入れを行い意見交換も行って いる。町主催の地域密着連絡会や研修にも参加している。	
			(外部評価) 町職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組 みについて報告を行うなどの意見交換をしたり、地域密着型連 絡会に参加し様々な情報交換をしている。また、介護相談員の 訪問が毎月あり利用者や職員と会話する機会が多く、言葉遣い など気づいたことを助言してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止委員会を施設で立ち上げ、3カ月毎に会議を行っ ている。身体拘束が必要になったときには、随時会議を行い検 討している。不適切ケアチェックシートを3カ月毎に実施。勉 強会を行い、身体拘束についての理解を深めている。	
			(外部評価) 身体拘束委員会の設置や外部研修に参加し研修報告を全職員へ 周知するなど、職員全員が共有し身体拘束をしないケアに努め ている。また、身体拘束マニュアルを作成し、日中は玄関の施 錠をせず利用者が自由に出入りできるよう配慮すると共に、日 頃から尊厳を大切にしたい声かけができるよう利用者に寄り添 い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止委員会を施設で立ち上げている。虐待についての種類やグレーゾーン、事例をもとに勉強会をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の方が成年後見人制度を利用している。内容についての理解は乏しい。今後、地域包括支援センターに依頼し勉強会を開催する予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項や契約書の説明を十分に行っている。利用者・家族の不安や疑問をたずねそれに対して説明を行っている。入所後も、不安や疑問があればその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。面会時には近況を報告し、意見や要望を聞いている。家族へは介護計画確認の際に意見が記入できるように確認書を同封している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見や要望は、面会時や運営推進会議等の際に聞くようにしている。「外出するのが好きだったので、できるだけ外に連れて行って欲しい。」など、個々の要望にも早急に対応するよう心がけている。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいよう工夫するほか、年内には家族会を開催する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案は個別で聞き、職員会議やユニット内で話し合っている。主任会や衛生委員会で内容を報告している。管理者は職員からこまめに話をきくように努めている。特に新人職員に対しては、不安点や疑問点などないか聞くようにしている。 (外部評価) 日頃から施設長や管理者は職員の要望を尊重し、勤務シフトを組むなど働きやすい環境づくりに努めている。また、毎月1回の職員会議や年1回の全体会議では、職員同士での活発な意見交換ができ有意義な会議となっており、職員の資質向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりの能力を把握し、特定基準を満たしていれば正職員への登用試験を薦めている。また、個人の得意分野を伸ばしていけるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し個々のスキルアップを図れるよう努めている。また、わからないことはその都度なんでも聞けるような体制作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内のグループホームでの運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の顔合わせから入所受け入れまで同一職員が対応している。家族や本人の不安を解消して頂けるようゆっくりと話ができる時間を持っている。入所後は特に関わりを多く持つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けいつでもどんなことでも相談できることを伝え、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時に本人・家族の要望を聞きその時に必要なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。利用中に他のサービスが必要となった場合は、本人・家族と相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように気をつけ声かけや対応を行っている。料理・園芸・行事などについても、いろいろな助言を頂き共に行っている。一緒に行うことで学ぶことも多く、共に支えあう関係を築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2か月に一度の便りで近況をお伝えしている。面会に来られた時には、直截近況をお話し家族からも意見等を頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との関係が途切れないように、家族に協力して頂き、自宅への外出や外泊を行っている。施設内の他事業所に同郷の方がおられる方は、会いにいたり会いにきたりしている。	
			(外部評価) 家族や友人が来所しやすいよう配慮し面会回数が増えている。法人内の施設の友人へ会いに行けるよう図るなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力により外泊する利用者の支援を行うなど、個別に外出できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が、移動時に誘いあっていかれたり洗濯物をもっていったり支え合い生活されている。会話がかみ合わないときや気分を損ねたりされる時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了する前には、これまでの経過や本人の状況・習慣好みなど、本人が安心して生活していけるように情報の提供をしている。また、できる限り会いに行けるようにしている。必要に応じてサービスが終了した後も相談や支援をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望や要望を取り入れている。面談や面会時に家族からも意見を聞いている。	
			(外部評価) 職員は、入浴中など利用者一人ひとりに向き合いながら、気持ちを汲み取り思いを把握するよう努めている。また、意向の把握が困難な利用者には日常の表情や行動を見落とさないようしたり、家族から思いを聞いたり生活歴などから判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方生活環境等を本人、家族に詳しく聞き把握している。また、入所後、新たに話された生活歴等をアセスメントに書き加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケース記録をこまめに行い把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 遠方の家族には、電話連絡により思いや意向を聞いており、利用者や家族の意見を反映し介護計画を作成している。利用者の担当職員は、生活状況や身体状況を常に把握の上、月に1回モニタリングを行っているほか、担当者会議を開催し必要に応じ介護計画を見直しており、その都度家族に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜間の引き継ぎを十分に行い情報収集に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループホームでの生活が困難になった場合には、家族・主治医と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の訪問理容サービスや地域の行事への参加、施設内での行事に地域の方に参加して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院の医師が2週間毎に往診して頂いている。異変時には、協力病院に受診している。協力病院以外の受診は、家族が対応しているが困難な時には職員が受診の協力をしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の往診や急変時などにも対応できるよう医療体制が整っている。職員の同行や家族の協力を得て専門医の受診も継続できるよう努めている。職員同行により通院した場合には、受診内容は随時家族へ報告している。また、週に1度歯科医の訪問があり、希望により受診できるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームと併設のため、看護職員に相談したり必要時には診てもらっている。また、回診時には特別養護老人ホームの看護師と協力病院の看護師も立ち会ってもらっている。夜間等、異変時や不安時には協力病院へ連絡し相談や指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院へこまめに面会に行き、医師や看護師に状態を聞き早期退院できるように医療機関との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしていない。重症化した場合には些細なことでも家族に連絡している。医療機関とも密に連絡をとり家族には出来ること・出来ないことの説明を行っている。	
			(外部評価) 重度化や終末期の対応については早い段階から家族と話し合いを行い、事業所で対応できなくなった場合には、併設の特別養護老人ホームや家族が希望する施設等に転居するなど、利用者や家族の意向に沿った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルを見やすい所に貼るとともに勉強会を行っている。また、AEDに対しての講習会も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握あい、災害時の避難方法を身につけ避難訓練を実施している。H28年6月施設裏側に原子力防災屋内退避棟が完成し、そこへの避難訓練を行っている。 (外部評価) 原発災害時対策として、建物の2階から渡り廊下で繋がっている屋内退避棟があり、利用者や職員全員が避難できる広さがある。先月ここに避難する訓練を実施し、津波災害時にもこの退避棟に避難する方針である。また、消防署立会いによる避難訓練も実施している。	事業所の周りには民家がないため、緊急時には隣にある海産物工場の協力が不可欠で、避難訓練を一緒にするなど今後の連携強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけを行うよう心がけている。居室へ入る際はノックや声かけを行い本人の了承を得てから入るようにしている。また、個々に合わせて方言を使いながら声かけすることもある。 (外部評価) 利用者一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の状態に応じた声かけのタイミングなどに配慮した対応を心がけている。地元の方言がきつく聞こえることがあるため、職員は、利用者との会話には特に注意を払っている。管理者は、ミーティングで利用者が羞恥心を感じないような配慮について職員に指導するなど、利用者の尊厳を損ねないようなケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 居室で休みたい方は、休まれたりと自分のペースで過ごさせている。一人ひとりの希望を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。また、自己決定ができるような声かけを行い、本人が理解したうえで決めて頂くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類はなるべく自分で決めて頂くようにしている。在宅で使用していた化粧品等を家族に協力して持って頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設施設のため、献立は栄養士が立てている。一日のメニューを見えるところに掲示している。調理の準備や片づけは出来る方に手伝って頂いている。	
			(外部評価) 献立は栄養士が1週間単位で作成している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。食事介助の必要な利用者には、職員が寄り添いゆっくりとしたペースでの支援に努めている。また、嚥下困難な利用者には、状態に合わせてトロミ食やミキサー食にするなど工夫している。夏にはそうめん流し、敬老会ではいなり寿司など、利用者の好みに合わせ季節感も楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事・水分摂取量を把握している。好みの水分を家族から差し入れてもらう方もいる。食事摂取量の低下が体調変化に表れる方がおられるので気をつけている。また、摂取量の減少している方は家族、主治医、栄養士と相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時、希望される方には義歯を預かっている。また、義歯や口腔内の異常があり希望される方には、訪問歯科医に診てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄訴え時に誘導行っている。ユニット内の方すべてがトイレで排泄出来ている。失敗した場合も、本人が傷つかないように配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう自立を促している。日中はリハビリパンツや尿パットを使用し、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者の状態に合わせ一人ひとりの思いを汲み取りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便の確認を行っている。便秘の方には水分補給や運動などを行っている。また、主治医に相談し緩下剤でコントロール行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は本人の希望を聞きながら入浴している。体調不良等で入浴出来ない時には、足浴や清拭を行っている。入浴を嫌がる方へは、声かけの仕方や機嫌を見ながら入浴して頂いている。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本とし支援しているが、利用者の希望に沿い毎日いつでも入浴することもできる。利用者の身体状況に応じ滑り止めマットやシャワーチェアを使用したり、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴できるよう努めている。一般浴槽以外に特殊浴槽もあり、利用者の状態に合わせた入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活ペースで午睡したり、夜間ゆっくり寝て頂けるよう日中の活動を工夫している。夜間眠れない方は出来る限り話を聞いたり、安心して睡眠出来るように家族・医師と相談し眠剤の服用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服介助時は、個人の薬の種類、目的が記載されたボードを確認しながら介助している。内服薬変更時は、引き継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に出来ることを役割として頂くことで喜びにつながっている。また、厨房から野菜の下準備をさせてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出は難しいこともあるが、事業所だけですぐさず他の事業所や散歩などに行けるようにしている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、中庭で外気浴をするなどの支援をしている。月に1度のドライブや運動会等年間の行事計画を立て、利用者の意向に沿った外出支援に努めている。また、町から温泉入浴券の支給があり、福祉風呂のある温泉施設に出かけゆっくり過ごすなど、利用者の気分転換が図れるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で少額のお金を持っている方もいるが、他の方は家族より預かり事務所で保管している。外出時には自分で払っていただけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望のある時に電話や手紙の支援をしている。また、携帯電話を持たれている方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が味わえるように草花を飾ったり外出や行事等の写真を飾っている。廊下や食堂など安全面に気をつけるようにしている。	
			(外部評価) リビングの大きい窓から自然豊かな宇和海が眺められ、暖かい光が差し込む明るく落ち着いた雰囲気の間となっている。壁や天井には利用者と一緒で作ったブドウの木を飾り、季節を感じることができる。利用者は畳コーナーやソファでゆっくりくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの穏やかなひと時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファや畳の間があり、それぞれの場所で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心できる居室作りのために使い慣れたものや馴染みのものを持ってきてくれる方もおられる。家族の写真を貼り家族が近くに感じられるように工夫している。	
			(外部評価) 居室には、ベッド、エアコン、クローゼットが備えつけられている。家族からの手紙や写真、クッション、椅子、仏壇等馴染みの物やお気に入りの物が持ち込まれ、利用者は安心した気分で見られる。また、壁には利用者の手作り作品などが飾られ居心地のいい空間となっており、落ち着いた雰囲気でも過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力に合わせて環境作りに努めている。状態の変化に伴い、居室内の導線を本人が動きやすいように職員間で話し合い工夫をしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建っており、近くに保育所があります。海や山も近く自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間の行き来が自由にでき、普段から交流がもたれています。ホームは、総合福祉施設の一事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得られる等、日常的に連携が図れています。また、原子力防災対策として施設裏側に避難用シェルターが完成しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3階建ての高齢者総合福祉施設の1階にあり、窓からは青々とした宇和海を眺めることができ、四季折々の風情を感じることができる。福祉施設全体での行事や催しものを実施するなど、利用者同士の繋がりが増え、馴染みの関係もでき、職員間の連携も密になっている。また、職員全員が目標を掲げ、利用者がゆっくりと穏やかに生活できるよう支援をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、職員もまた管理者の声に耳を傾けるなど、何でも相談できる良好な関係が築かれ、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、笑顔あふれる暮らしが継続できるよう事業所全体で一丸となり取り組んでおり、さらなる発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)
氏名 那須 百合

評価完了日 平成28年8月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 法人の基本理念・基本方針を基に、職員一人ひとりが目標を持ちいつでも見て頂けるように掲示している</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念と基本方針を事業所内に掲示し、常に職員間で確認し合いながら職員全員が一致団結し利用者本位のケアに繋げている。職員全員が、理念に沿った目標を立て、達成できるよう取り組んでいるほか、新人職員には管理者から理念について分かりやすく説明し、業務に生かせるよう指導している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的な交流は、少ないが地域の保育園行事への参加や、施設内の行事に地域の方が参加されたりボランティアに来て頂いている。</p> <p>(外部評価) 近隣の保育園児の訪問や8月には施設全体の夏祭りを多くの地域住民の参加を得て開催するなど、地域との連携は取れている。利用者と職員がラップの芯をバチ代わりにして歌に合わせて合奏をするなどの出し物を披露し、大好評であった。また、9月には敬老会の開催も予定している。</p>	事業所の周りには民家がなく、近隣の保育園とは日常的に交流があったが、来春で閉園が決まるなど寂しい状況となる。幸いなことに近くに海産物の工場があり、今後は、地域とのつながりを深める意味でも工場見学を計画するなど、工場とのつながりを密にするような取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、認知症の人の特性や理解を図るため、議題として取り上げ意見交換を行い理解していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議では、会議だけでなく行事を委員の方と一緒にを行うよう にし、ふれあう時間を設けている。会議で出た意見等は、職員会で報 告している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町職員、区長、民生委員や介護相談員 など、幅広い参加者を得て誕生会やクリスマス会の行事を合わせるな どし開催している。誕生会では昔のおやつ作りが好評を得ており、ま た、会議では事業所の利用状況や活動報告を行い活発な意見交換がで き、ケアの質の向上に努め利用者本位の支援に繋げている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に、参加して頂いており日頃から連携がとれている。ま た、毎月介護相談員の受け入れを行い意見交換も行っている。町主催 の地域密着連絡会や研修にも参加している。</p> <p>(外部評価) 町職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みにつ いて報告を行うなどの意見交換をしたり、地域密着型連絡会に参加し 様々な情報交換をしている。また、介護相談員の訪問が毎月あり利用 者や職員と会話する機会が多く、言葉遣いなど気づいたことを助言し てもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束廃止委員会を施設で立ち上げ、3カ月毎に会議を行っている。 身体拘束が必要になったときには、随時会議を行い検討してい る。不適切ケアチェックシートを3カ月毎に実施。勉強会を行い、身 体拘束についての理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束委員会の設置や外部研修に参加し研修報告を全職員へ周知す るなど、職員全員が共有し身体拘束をしないケアに努めている。ま た、身体拘束マニュアルを作成し、日中は玄関の施錠をせず利用者が 自由に入出りできるよう配慮すると共に、日頃から尊厳を大切にした 声かけができるよう利用者に寄り添い支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止委員会を施設で立ち上げている。虐待についての種類やグレーゾーン、事例をもとに勉強会をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の方が成年後見人制度を利用している。内容についての理解は乏しい。今後、地域包括支援センターに依頼し勉強会を開催する予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項や契約書の説明を十分に行っている。利用者・家族の不安や疑問をたずねそれに対して説明を行っている。入所後も、不安や疑問があればその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。面会時には近況を報告し、意見や要望を聞いている。家族へは介護計画確認の際に意見が記入できるように確認書を同封している。 (外部評価) 利用者や家族の意見や要望は、面会時や運営推進会議等の際に聞くようにしている。「外出するのが好きだったので、できるだけ外に連れて行って欲しい。」など、個々の要望にも早急に対応するよう心がけている。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいよう工夫するほか、年内には家族会を開催する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案は個別で聞き、職員会議やユニット内で話し合っている。主任会や衛生委員会で内容を報告している。管理者は職員からこまめに話をきくように努めている。特に新人職員に対しては、不安点や疑問点などないか聞くようにしている。	
			(外部評価) 日頃から施設長や管理者は職員の要望を尊重し、勤務シフトを組むなど働きやすい環境づくりに努めている。また、毎月1回の職員会議や年1回の全体会議では、職員同士での活発な意見交換ができ有意義な会議となっており、職員の資質向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人ひとりの能力を把握し、特定基準を満たしていれば正職員への登用試験を薦めている。また、個人の得意分野を伸ばしていけるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し個々のスキルアップを図れるよう努めている。また、わからないことはその都度なんでも聞けるような体制作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内のグループホームでの運営推進会議を通して相互訪問を行い、情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の顔合わせから入所受け入れまで同一職員が対応している。家族や本人の不安を解消して頂けるようゆっくりと話ができる時間を持っている。入所後は特に関わりを多く持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けいつでもどんなことでも相談できることを伝え、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時に本人・家族の要望を聞きその時に必要なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。利用中に他のサービスが必要となった場合は、本人・家族と相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように気をつけ声かけや対応を行っている。料理・園芸・行事などについても、いろいろな助言を頂き共に行っている。一緒に行くことで学ぶことも多く、共に支えあう関係を築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2か月に一度の便りで近況をお伝えしている。面会に来られた時には、直截近況をお話し家族からも意見等を頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との関係が途切れないように、家族に協力して頂き、自宅への外出や外泊を行っている。施設内の他事業所に同郷の方がおられる方は、会いにいたり会いにきたりしている。 (外部評価) 家族や友人が来所しやすいよう配慮し面会回数が増えている。法人内の施設の友人へ会いに行けるよう図るなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力により外泊する利用者の支援を行うなど、個別に外出できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が、移動時に誘いあつていかれたり車椅子を押してあげたりしている。会話がかみ合わないときや気分を損ねたりされる時には、職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了する前には、今までの経過や本人の状況・習慣好みなど、本人が安心して生活していけるように情報の提供をしている。また、できる限り会いに行けるようにしている。必要に応じてサービスが終了した後も相談や支援をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望や要望を取り入れている。面談や面会時に家族からも意見を聞いている。 (外部評価) 職員は、入浴中など利用者一人ひとりに向き合いながら、気持ちを汲み取り思いを把握するよう努めている。また、意向の把握が困難な利用者には日常の表情や行動を見落とさないようにしたり、家族から思いを聞いたり生活歴などから判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方生活環境等を本人、家族に詳しく聞き把握している。また、入所後、新たに話された生活歴等をアセスメントに書き加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケース記録をこまめに行い把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 遠方の家族には、電話連絡により思いや意向を聞いており、利用者や家族の意見を反映し介護計画を作成している。利用者の担当職員は、生活状況や身体状況を常に把握の上、月に1回モニタリングを行っているほか、担当者会議を開催し必要に応じ介護計画を見直しており、その都度家族に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜間の引き継ぎを十分に行い情報収集に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) グループホームでの生活が困難になった場合には、家族・主治医と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の訪問理容サービスや地域の行事への参加、施設内での行事に地域の方に参加して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院の医師が2週間毎に往診して頂いている。異変時には、協力 病院に受診している。協力病院以外の受診は、家族が対応しているが 困難な時には職員が受診の協力をしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっており、月 2回の往診や急変時などにも対応できるよう医療体制が整っている。 職員の同行や家族の協力を得て専門医の受診も継続できるよう努めて いる。職員同行により通院した場合には、受診内容は随時家族へ報告 している。また、週に1度歯科医の訪問があり、希望により受診でき るよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームと併設のため、看護職員に相談したり必要時には 診てもらっている。また、回診時には特別養護老人ホームの看護師と 協力病院の看護師も立ち会ってもらっている。夜間等、異変時や不安 時には協力病院へ連絡し相談や指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院へこまめに面会に行き、医師や看護師に状態を聞き早期 退院できるように医療機関との情報交換に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしていない。重症化した場合には些細なことでも家族に 連絡している。医療機関とも密に連絡をとり家族には出来ること・出 来ないことの説明を行っている。	
			(外部評価) 重度化や終末期の対応については早い段階から家族と話し合いを行 い、事業所で対応できなくなった場合には、併設の特別養護老人ホー ムや家族が希望する施設等に転居するなど、利用者や家族の意向に 沿った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についてマニュアルを見やすい所に貼るとともに勉強会を行っている。また、AEDに対しての講習会も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握あい、災害時の避難方法を身につけ避難訓練を実施している。H28年6月施設裏側に原子力防災屋内退避棟が完成し、そこへの避難訓練を行っている。 (外部評価) 原発災害時対策として、建物の2階から渡り廊下で繋がっている屋内退避棟があり、利用者や職員全員が避難できる広さがある。先月ここに避難する訓練を実施し、津波災害時にもこの退避棟に避難する方針である。また、消防署立会いによる避難訓練も実施している。	事業所の周りには民家がないため、緊急時には隣にある海産物工場の協力が不可欠で、避難訓練を一緒にするなど今後の連携強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけを行うよう心がけている。居室へ入る際はノックや声かけを行い本人の了承を得てから入るようにしている。また、個々に合わせて方言を使いながら声かけすることもある。 (外部評価) 利用者一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の状態に応じた声かけのタイミングなどに配慮した対応を心がけている。地元の方言がきつく聞こえることがあるため、職員は、利用者との会話には特に注意を払っている。管理者は、ミーティングで利用者が羞恥心を感じないような配慮について職員に指導するなど、利用者の尊厳を損ねないようなケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 居室で休みたい方は、休まれたりと自分のペースで過ごされている。一人ひとりの希望を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。また、自己決定ができるような声かけを行い、本人が理解したうえで決めて頂くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類はなるべく自分で決めて頂くようにしている。男性の方は毎朝、ひげそりの声かけを行っている。自分で行えない方は介助し身だしなみを整えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設施設のため、献立は栄養士が立てている。一日のメニューを見えるところに掲示している。調理の準備や片づけは出来る方に手伝って頂いている。	
			(外部評価) 献立は栄養士が1週間単位で作成している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。食事介助の必要な利用者には、職員が寄り添いゆっくりとしたペースでの支援に努めている。また、嚥下困難な利用者には、状態に合わせてトロミ食やミキサー食にするなど工夫している。夏にはそうめん流し、敬老会ではいなり寿司など、利用者の好みに合わせ季節感も楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事・水分量を把握している。好みの水分を家族から差し入れてもらったりして水分摂取に努めている。飲み込みにくくなった方には、食事形態の変更をし厨房に協力を得ている。また、食事・水分量の減少している方には家族、主治医、栄養士と相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時、希望される方には義歯を預かっている。また、義歯や口腔内の異常があり希望される方には、訪問歯科医に診てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄訴え時に誘導を行っている。排泄の訴えがない方は時間をみてトイレ誘導している。失敗した場合も、本人が傷つかないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう自立を促している。日中はリハビリパンツや尿パットを使用し、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者の状態に合わせて一人ひとりの思いを汲み取りながら支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) ケアチェック表で排便の確認を行っている。便秘の方には水分補給や運動などを行っている。また、主治医に相談し緩下剤でコントロールを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴前にバスタチェックを行い、体調の良い日は本人の希望を聞きながら入浴している。体調不良等で入浴出来ない時には、足浴や清拭を行っている。入浴を嫌がる方へは、声かけの仕方や機嫌を見ながら入浴して頂いている。</p> <p>(外部評価) 週2回の入浴を基本とし支援しているが、利用者の希望に沿い毎日いつでも入浴することもできる。利用者の身体状況に応じ滑り止めマットやシャワーチェアを使用したり、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴できるよう努めている。一般浴槽以外に特殊浴槽もあり、利用者の状態に合わせた入浴ができるよう配慮している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活ペースで午睡したり、夜間ゆっくり寝て頂けるよう日中の活動を工夫している。夜間眠れない方は出来る限り話を聞いたり、安心して睡眠出来るように家族・医師と相談し眠剤の服用を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服介助時は、個人の薬の種類、目的が記載されたボードを確認しながら介助している。内服薬変更時は、引き継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に出来ることを役割として頂くことで喜びにつながっている。また、厨房から野菜の下準備をさせてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出は難しいこともあるが、事業所だけですぐさず他の事業所や散歩などに行けるようにしている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、中庭で外気浴をするなどの支援をしている。月に1度のドライブや運動会等年間の行事計画を立て、利用者の意向に沿った外出支援に努めている。また、町から温泉入浴券の支給があり、福祉風呂のある温泉施設に出かけゆっくり過ごすなど、利用者の気分転換が図れるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で少額のお金を持っている方もいるが、他の方は家族より預かり事務所で保管している。外出時には自分で払っていただけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望のある時に電話や手紙の支援をしている。また、携帯電話を持たれている方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が味わえるように草花を飾ったり外出や行事等の写真を飾っている。廊下や食堂など安全面に気をつけるようにしている。	
			(外部評価) リビングの大きい窓から自然豊かな宇和海が眺められ、暖かい光が差し込む明るく落ち着いた雰囲気の間となっている。壁や天井には利用者と一緒に行ったブドウの木を飾り、季節を感じることができる。利用者は畳コーナーやソファでゆっくりくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの穏やかなひと時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファや談話室がある。テレビ前のソファや談話室で気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心できる居室作りのために使い慣れたものや馴染みのものを持ってきている方もおられる。家族の写真を貼り家族が近くに感じられるように工夫している。	
			(外部評価) 居室には、ベッド、エアコン、クローゼットが備えつけられている。家族からの手紙や写真、クッション、椅子、仏壇等馴染みの物やお気に入りの物が持ち込まれ、利用者は安心した気分で見られる。また、壁には利用者の手作り作品などが飾られ居心地のいい空間となっており、落ち着いた雰囲気でも過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力に合わせて環境作りに努めている。状態の変化に伴い、居室内の導線を本人が動きやすいように職員間で話し合い工夫をしている。	